



カンボジア最大の貿易港に隣接

シハヌークビル港経済特区 現地レポート

No.1

2019.02

2018年末現在、カンボジアには40を超える経済特別区(SEZ)があります。このニュースレターは日本政府・JICA支援で開発されたカンボジア「シハヌークビル港経済特区(Sihanoukville Port SEZ)」の企業立地を促進するために発行するものです。日本企業の皆さまに定期的にお届けする現地の投資状況や産業関連情報が、企業進出の一助となれば幸いです。



最低賃金182ドルへ

テキスタイルや衣服、履物産業に従事する労働者の最低賃金を決定する三者委員会(組合、政府、雇用者)が開催され、2019年1月から最低賃金を182ドルに引き上げることに合意した。

2018年10月4日、三者会議は労働組合提案の182ドルと雇用者提案の177ドルの2案で関係者の投票が行われ、177ドル案がほぼ全会一致で可決された。

労働大臣で労働諮問委員会のIth Sam Heng氏は、フンセン首相がこの177ドルに5ドルを加えた182ドルを最低賃金とし、既存の給付および手当は変更しないことを決定したと述べた。カンボジア縫製業協会のVan Sou Ieng会長は、新しい最低賃金について、ベトナムの最低賃金は184ドルであること、またカンボジアの輸送コストが高いことを指摘した上で、「カンボジア政府が電気料金を約0.15ドル/kWhまで引き下げる予定であり、これはプラス要素だが、ベトナムは依然として高い生産性を保持しており、こうした引き上げは他国との競争をより厳しいものにするだろう」と述べた。

一方、カンボジア労働組合のAth Thorn組合長は、十分ではないが受け入れるとしている。

出典: Phnom Penh Post, 2018.10.05

ADB、シハヌークビル及び コロン島の港湾整備に 3000万ドルの融資を検討

観光省は、沿岸地域の観光開発インフラ整備に対する3,000万ドル強の融資について、アジア開発銀行(ADB)と協議を開始した。この資金はシハヌークビルとロン島の港湾整備に充てる予定だが、一部はケップ州の廃棄物管理プログラムにも利用される。同省によれば、政府はこの3,000万ドルのコンセッションローンを受け取る予定だという。同省のTop Sopheak報道官は「資金供与を受けるプロジェクトは、沿岸地域に大きな利益をもたらす。特にロン島の港湾整備は、多くの投資や開発を誘発するだろう」と語った。一方、いずれのプロジェクトも着工日は発表されなかった。

出典: Khmer Times, 2018.12.03

カンボジア服飾、棚ぼた

—中国メリット低下、米アパレル生産代替—

米アパレル企業がカンボジアに熱い視線を送っている。米中貿易戦争が激しさを増す中、生産地としての中国の魅力が薄れているからだ。

サプライチェーンの分散化に取り組むファッション各社であるが、実際には貿易戦争に突入する前から、中国の代替地として東南アジアに生産拠点を広げていた。トランプ政権は対中制裁関税第3弾で、中国からのハンドバッグなど服飾品に対する関税率を引き上げる。代わってカンボジアの場合、一部は免税品目として引き続き米国への輸出が認められている。このため、米スティーブンマデンやコーチなど消費者向け製品を手掛ける各社にとって、カンボジアの魅力が一段と高まっているのだ。

米国アパレル・フットウェア協会(AAFA)の幹部は「生産拠点の移転は進んでいる。関税問題を懸念する企業は多く、移転に際し自分たちがどのくらい迅速に対応できるかを見極めていくところだ」と述べている。実際、米国ファッション産業協会(USFIA)が2018年7月に公表した調査結果によれば、調査対象全ての企業が中国から調達していて、その67%が今後2年で中国の生産量や生産額を減らすとの見通しを示した。

中国の賃金上昇と米国の保護主義により、世界で最も労働力の安い国の一つであるカンボジアにとっては今、追い風が吹いている状態である。

もっとも課題は少なくない。AAFA幹部は「残念ながら、中国からの生産移転は簡単ではない」と明かす。労働力の安さは必ずしも効率的な生産と同義語ではなく、カンボジアの生産性は中国と比べると低いからだ。

さらに追い討ちを掛けそうなのが政治的要因である。7月のカンボジア総選挙で与党カンボジア人民党(CPP)が国民議会(下院)の定数125議席全てを獲得したことから、米政府は「不正」選挙だと批判。米国と欧州が貿易政策を見直し、「カンボジアの衣料品産業を関税面で優遇するのをやめる可能性」があり、「政治的な問題が決着するまでカンボジアでの生産拡大には注意が必要」といった指摘がある。

(ブルームバーグ/Uliana Pavlova)

出典: Sankei Biz, 2018.09.19(一部抜粋要約)



DHLエクスプレスカンボジア社、 プノンペンとシハヌークビルSEZに サービス拠点開設

DHLエクスプレスが今月、プノンペンとシハヌークビルSEZの2カ所に新しい営業所を開設した。これはDHLエクスプレスカンボジア社の輸出拡大による市場の成長に対応したもので、顧客への迅速なアクセスと利便性が提供される。特に首都プノンペンの営業所の開設は、急増する中国投資を見据え、顧客サービスを容易にするものだ。

また、フン・セン首相がカンボジアの経済ライフラインの「竜の頭」と称するシハヌークビルSEZには、現在、約100の工場が立地し、今後5年間に300社の誘致が見込まれている。カンボジア最大のSEZに設置された新営業所は、同国の南部回廊沿いで急成長する縫製業界を顧客とするため戦略的に計画されたものである。

同社の幹部は「急速な経済発展を遂げているカンボジア市場において、当社の新しいサービス拠点は国際エクスプレスサービスに対する需要増を支え、主要なトレードファシリテーターとして顧客のグローバルビジネスにコミットするものである」と述べた。

出典：Khmer Times, 2018.10.01

JCエアライン、シアヌークビル —中国・広州間運行便サービス開始—

プノンペンに本拠を置くJCは、中国・広州とシハヌークビル間で定期便を開始した(毎日運行・エアバスA320-200)。JCは「旅行者や沿岸地域に頻繁に出張する中国人投資家やビジネスマンのニーズに応えるため、シアヌークビル—広州間のフライトを開始することにした」と述べ、「新ルートによりカンボジアの沿岸地域への中国人訪問者の増加を期待している」と語った。Taing Socheatkrishnaシハヌーク州観光局長は「中国からシハヌークビルに乗り入れる航空会社が増えれば、観光面でも中国からの増加が見込める」とし、この新路線が「州の観光産業発展の兆候だ」

と語った。ちなみに、JCエアラインは中国のYunnan Jingcheng Group(雲南景成集団)に属する新興航空会社である。

カンボジアにある3つの国際空港は、2018年の上半期に昨年同時期から23.7%増の520万人の旅客を迎え入れている。

出典：Khmer Times, 2018.09.13

SEZ、輸出促進のため 原産地証明書(CO)発行へ

商業省は、アセアン諸国との貿易促進のため、国境付近に位置する経済特別区(SEZ)での原産地証明書(CO)を発行する計画である。

輸出局のHo Sivvong部長は「プリア・シアヌーク州およびコクコン州の商務担当職員やスタッフに対して能力向上のための技術支援が開始される」と述べた。続けて同氏は「われわれは2つの州のSEZを視察した。業務の自動化システムの早期導入を願う。このシステムにより、トレーダーの輸出手続きにかかる時間が短縮され、アセアン諸国への輸出がスピードアップされる」と語った。

COは、製品がある国で完全に生産されたことを証明するために使用され、海外のバイヤーから要求されるものである。その発行に当たり、生産者やトレーダー、輸出者は「Dフォーム」の提出が求められる。商業省は、経済活動や輸出促進のため、特定の地方州政府の商業部門にこの「Dフォーム」の発行権限を与えた。

このサービスは2017年11月に開始され、ベトナムと国境を接するスバイリエン州バベットのSEZで初めてCO発行が導入された。現在、パイリン、バットンバン、バンテイメンチェイ、ウドンメンチェイ、ラタナキリ、トボンクムンの各州政府で原産地証明書の発行権限が認められている。この新たなサービスにより、COの発行所要日数は商業省(プノンペン)発行の10日~2週間から16時間にまで短縮され、地方の輸出業者は恩恵を受けるものとなる。

出典：Khmer Times, 2018.11.09

良好な関係の中で急増する日本への輸出

政経両面の関係強化により、カンボジアから日本への輸出は2018年1~9月で急増した。

JETROの最新統計によると、カンボジアの輸出は23.5%増、輸入は12.7%増、日本への出荷額は11億8,000万ドルで、一方カンボジアの日本製品購入額は約2億9,300万ドルだった。

9月に限ると、日本への輸出は前年同月比22.5%増、輸入は21.9%増で、輸出額は1億7,450万ドル、輸入額は3,760万ドルを記録した。

カンボジアからの輸出製品のほとんどは衣料品と履物製品で、わずかに携帯電話用電池などの電子部品がある。JETROによると、日本からの輸出品は主に機械、自動車、電子製品で、この他、牛肉、鉄鋼、医薬品などである。商務省の報道官は「両国関係は貿易に限らず、あらゆる分野で良好である。JETROの最新貿易統計は、カンボジア製品に対する信頼性と地域統合の重要性を示している」と強調した。

2018年11月6日、JETROの宮尾代表とCham Prasidh産業大臣はプノンペンでの会合で、大臣は「JETROはカンボジアの貿易および投資を促進する上で重要な役割を果たしている。かつての日本企業は、安全面の不安からカンボジアへの投資に慎重であったが、現在はあらゆる分野への投資に関心を寄せており、カンボジアの発展に大きく貢献していることに常に感謝している」と述べ、政府がJETROの活動を高く評価していることを伝えた。大臣によれば、現在、カンボジアでは82の日系工場が稼働中で、約3万の雇用が創出されたという。

一方、最高経済評議会のMey Kalyan上級顧問も日本への輸出の伸びは印象的であるとし、「これまで主にEUと米国が支配してきたカンボジアの輸出市場を多様化させるためには、両国の貿易関係をさらに強化することが重要だ」と述べた。さらに同氏は、現在、特にポイパト特別経済区を中心に日本企業が増えている例や、これまでタイに拠点を置いていた日本企業が人件費や安定した政治に注目し、カンボジアへの工場進出を決めていることを挙げ、「これは投資優遇税制をはじめ、投資家

フレンドリーな政策とカンボジア経済の安定成長に日本企業が確信をもっている証左である」と語った。

出典：Khmer Times, 2018.11.08

阪神国際港湾株式会社、 シハヌークビル港湾公社の一部株式取得

阪神国際港湾株式会社は12月26日、シハヌーク港の運営に参画するためシハヌーク港湾公社の一部株式2144300株(発行株式総数の2.5%)を約5億円で取得した。取得方法はJICAとの相対取引による売買。JICAは2017年6月、シハヌークビル港湾公社がカンボジア証券取引所の上場した際、新規株式総数の13.5%を取得している。阪神国際港湾は、大阪港、神戸港を運営している会社であるが2018年8月に施行された「海外社会資本事業への我が国事業者の参入促進に関する法律」を受け、海外展開することとなり、最初の進出先としてシハヌークビル港を選んだもの。

本紙編集部



シハヌークビル港

シハヌークビル港SEZ

進出企業に聞く

株式会社 ユニオン楽器 (カンボジア)

工場長 中村 歩氏

●Profile

名称：株式会社ユニオン楽器

本社：埼玉県越谷市

設立：1979年6月

事業内容：

リニューアルピアノ生産、輸出、楽器販売、調律、音楽教室

SPSEZ(シハヌークビル港経済特区) 入居を決められた理由は？

シハヌークビル港に隣接しているSEZだからです。同港はカンボジア唯一の深海港であり、周辺の国際港とコンテナ定期路線でつながっている国際港です。また、JICA支援で整備された高品質で信頼できるインフラを備えたSEZで、開



中村 歩氏(現地工場前にて)

発者であるPAS(シハヌークビル港湾公社)にはJICAが現在も株主として参画し、アドバイザーチームを派遣するなど運営もサポートしています。これらが進出を決めた大きな理由です。

進出に当たり、 カンボジア内外を含め他のSEZと 比較検討されたと思いますが。

カンボジアを検討する前はロシアやミャンマーへの進出を考えていましたが、タイミングや人との縁があって、カンボジアを見始め、本格的に検討を進めました。カンボジア国内ではプノンペンやポイパトと比較検討しましたが、前述の理由からSPSEZへの入居を決めました。

操業準備をされていますが、 これまでの印象やご苦労は？

私自身、これまで経験のない立ち上げからのスタートであり、またカンボジアという海外での立ち上げだったので、当初は不安も感じていました。しかし、長い付き合いのある日本人の大工さんに長期で来てもらい、現場を管理・指導してもらうことができました。また、内装工事をお願いした現地業者も、英語があまり通じない中、私たちのリクエストに柔軟に対応してくれました。やはり「人」に恵まれてここまで来たと思います。

現在、内装工事はほぼ終わり、作業に必要な設備や資材もそろいました。より高品質、より大量生産を実現すべく、

日本人工場長1名、カンボジアマネージャー2名、カウンター1名、ワーカー13名で、実際のピアノを使っている作業工程を確認しているところ。当面は30人規模でスタート、ゆくゆくは50人規模にする予定です。

シハヌークビルに住み始めてからの 現地の印象は？

カンボジアの人は穏やかながらも陽気という印象を持っています。今、住んでいるアパートの周りでも、私が日本人と分かると、子どもたちが知っている日本語で話し掛けてきてくれます。

仕事の場面でも、日本人1人ということもあり、SEZ部局の部長をはじめとする

運営陣の方々と会う機会も多いのですが、付き合いやすい方ばかりで助かっています。

今後のご予定をお聞かせください。

当面は日本から中古ピアノを輸入し、カンボジアで「新しい商品に生まれ変わらせ」、世界に輸出する予定です。将来的には、カンボジア周辺国への輸出やカンボジア国内での販売も考えています。これからも、目まぐるしく変わるシハヌークビルにおける有能な人材や良好な住環境の確保など、私たちの力だけでは及ばない面ではSPSEZの支援を頂きながら、長期的な事業運営を実現できればと考えています。

2018.12.13(聞き手:本紙 肥後伯子)

カンボジア随一のビーチリゾート

国際港湾都市として知られるシハヌークビルだが、観光面でも周辺地域随一のビーチリゾートとして有名。国内外から多くの観光客が訪れ、2018年上半期だけでも来訪者は約130万人に上った。同地にはセレンディピティービーチをはじめ、ソカビーチ、ヴィクトリービーチなど計7つのビーチがあり、それぞれバックパッカー向け、地元民向け、プライベート使用といった特色がある。ビーチには新鮮な魚介類が売りの海の家やレストランが立ち並び、海水浴の合間にマッサージを受ける人やゴザを敷いて青空カラオケ宴会を開くカンボジア人、新鮮なエビを売る女性など、さまざまな光景が目飛び込んでくる。

一方、ビーチの前にはロン島、ロンサレム島などの島々が浮かぶ。本土からはスピードボートなら約40分、フェリーなら2時間程度の距離である。昼は静かでのんびりした離島といった風情だが、夜は欧米系の若い世代が集まるナイトスポットとなっている。ダイビングやジェットスキーのツアーも楽しめるが、場所によってはインターネットが使えないことも。

年間を通して30℃前後で、雨季の急な雨もあるが、アジアらしい気候や海を楽しむにはもってこいの場所。遺跡のシムリアップ(アンコールワット)や首都のプノンペンとのセット、あるいはタイ・ベトナムの周遊のついでに足を伸ばしてみてもいいだろう。



開発がどんどん進むシハヌークビル市内の様子



ビーチレストランから望む夕焼け

シハヌークビル港SEZのセールスポイント

- カンボジア最大の国際貿易港に隣接したSEZ
- 日本の支援による信頼性の高いインフラ整備
- 日本人アドバイザーが常時運営に加わる

基本諸元

位置：カンボジア・シハヌークビル市(シハヌークビル港に隣接)

交通

- 陸路：プノンペンから約230km。(タイ及びベトナム国境から車で3時間以内)
- 海路：コンテナ船サービス有り。アジア域内航路を中心にマークス、RCL他週13便就航。シンガポールまでのトランジットタイムは2～3日。
- 空港：シハヌークビル国際空港から約15km。
- 鉄道：シハヌークビル～プノンペン約8時間。港湾敷地内に駅舎。

面積：63ha(分譲可能面積45ha)。レンタル工場有り。

分譲価格：借地料55～65ドル/m²(50年間の場合)

開発主体：シハヌークビル港湾公社(PAS)

*PASには日本政府(JICA)および日本民間企業が資本参加中。



シハヌークビル港(左)に隣接するSEZ



SEZ内の道路。遠方に貸工場の一部が見える



SEZ管理事務所

●お問い合わせ

シハヌークビル港経済特区管理事務所 現地レポート編集室：info-spsez2012@googlegroups.com

シハヌークビル港経済特区について：https://www.jica.go.jp/cambodia/office/...att/material_seminar_201711_01.pdf